

I 平成23年大分市消費者物価指数の動向

1 概況

平成23年平均大分市消費者物価指数の総合指数は、平成22年を100として99.7となり、前年に比べ0.3%の下落となった。

近年の総合指数の動きを前年比でみると、平成13年は耐久消費財や食料工業製品などの工業製品が下落したことなどにより0.7%の下落となり、その後も耐久消費財などの値下がりが続いたことなどから、14年は1.1%の下落、15年は0.3%の下落、16年は0.1%の下落となった。17年は米類・生鮮野菜などが値下がりしたことなどにより0.3%の下落となった。18年は原油高の影響などにより0.3%の上昇となった。19年はガソリン代や外食などが値上がりしたものの、耐久消費財の値下がりなどにより、前年と同水準となった。20年は原油高の影響などによりガソリン代・灯油や穀類などが大幅に値上がりしたため、1.4%の上昇となった。21年は原油価格が下落した影響などにより、ガソリン代・灯油が値下がりとなったことに加え、耐久消費財などが値下がりしたため、0.5%の下落となった。22年は食料や授業料等の大幅な下落に加え、耐久消費財などが引き続き値下がりしたため、1.4%の下落となった。

平成23年は原油価格の値上がりなどにより、ガソリン、電気代などが上昇したものの、地上デジタル放送移行後のテレビや、パソコンなどの耐久消費財が下落したことなどから前年に比べ0.3%の下落と、平成21年以降3年連続の下落となった。

総合指数と前年比の推移

